

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

偉人の言葉に学ぶ

「できると思えばできる。できないと思えばできない。これはゆるぎない絶対的な法則である。」

「できない理由を考えるのではなく、どうしたらできるかを考えよう。」

①「主体性について思う」その

「これからの世の中、先が見えない変化し続ける社会です。そんな社会で子ども達が活躍するために重視されていくのが「主体性」すなわち「進んで○○する」ということです。これは言ってもいいですね。」

「これまで教育現場は『学んだことを理解できているか』という問いをテストの点数で評価してきました。『知識・理解』に重きが置かれたことを、改めて。これからの社会は『習得した知識をもとに自分で考え、表現したり判断したり行動したりすることができ』る人材を求めています。学校でも評価の対象をシフトしていく必要性が出てきました。いわゆる『アウトプット』が重要視されるようになってきているのです。急速なデジタル化の影響で、10～20年後には今ある職業の49%が機械に代替される可能性があるといわれています。更に、グローバル化の影響で、約30%の企業が外国入国留学生を採用するとか!」

この様な現状から 変化の激しい社会の中で子ども達が生き抜くためにには 主体性が不可欠です。社会が求められている主体性とは、自分で考え、判断し、責任をもって行動する「力」。知識・理解にとまらず「得た知識を生かして何ができるのか、世界や社会でどのように関わっていくのか」といふ考え方を身につける必要が求められます。「主体性を身につけよう」といふ何をすればいいの!? 私達教師も悩むのですから、保護者の方も悩むかもしれませんよね。私自身はこれまでいろいろ試みてきたところを綴ってみます。

まず、子どもの主体性を育てるうえで避けたのが「過干渉」です。私もそうでした。母親から「勉強しなさい!」と言われて「今やそつ

「思っていたのに、やる気なくした」「と屁理屈。その後、けたくしを食いついて口々でした。朝起きた子に「顔は洗った?」「早くご飯食べて」「ハンカチ持った?」「学校から帰ってきた子には「手を洗った?」「おやつ出しておいたよ」「早く宿題して」。つい細かく声をかけたくなるのが親心かも知れません。ところが、大人が子ともに干渉しすぎると、次第に自分で物事を考えたり、判断したりすることが少なくなってしまう。」言われたものを用意して「言われてからやろう」といふ受動的な態度に「落ち着いてしまつたのです。ある程度は子どもの主体性に任せてあげよう」「学校で叱られても本人の責任」と思つても大切です。将来責任転嫁するようになってしまつては、私たち保護者も困つてしまふからですね。(その②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)

入院2日目、脊椎造影検査を受けるとになりました。簡

単に言っていますが、この検査は背柱管内に造影剤を入れてレントゲンを撮るもので、結構太めの針や、体をエビのように折り曲げた状態で腰から刺します。これが痛いものなので、何となく痛みが治まりました。この調子で痛みがなくなればと思っていました。そう簡単にはいきません。痛みが強くなり始め、2回目、3回目……。そして、ある日の朝、仰向けで寝ていた状態でクシャミをしたところ、こわまで終戦したことのない激痛が体を襲いました。立つこともできせん。こんな格好をしても痛みが継続している状態です。ところが、私は当時手術設備の完備していた、熊本整形外科病院に転院することになりました。このように車に乗り痛みを必死にこらえ移動しました。熊本整形外科病院では、私の痛がりゆが普通ではないことに気が付き、すぐに座薬の痛み止めと注射による痛み止めを打ってくださったました。後になって聞いたのですが、この注射は麻酔の一種で、使い方を間違つと中毒症状を引き起こすものなのです。いわゆるアップシクのようなものだったのでしょうか。この時点で、私は手術を決定しました。

手術を決意した時点で、そこまで腰が悪くなっていたことに、自分なりに考えてみました。先ず初めに悪い付いたのは高校時代のことです。ぎっくり腰のような症状で高校の近くにあった整形外科で、痛み止めの筋肉注射をしていたことを覚えています。この時点で注意していればよかったのかもしれないね。そして私は真逆の方向へと進んでいきます。大学時代、少林寺拳法部では今の運動部活動にはあり得ない「しき」がありました。また、もともと体が硬く、激しい運動や柔軟性が求められる運動には向いていなかったのかも知れません。それを、取って腰に悪いものばかりをしたのも知れません。就職し、黒田原看護学校では自分よりも体重的い子ども達を椅子から無理な体勢で抱えたり、更には職員体育でバドミントンにのめり込み、これで完全にヘルニアまっしぐら状態になりました。

(一六)